

**「現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究部門」 主催
安渡地域アーカイブ展**

2019 年 3 月 10 日（日）
大槌町中央公民館安渡分館

2019 年 3 月 10 日（日）、東日本大震災津波の被災地域である岩手県大槌町の中央公民館安渡分館にて、「現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究部門」が主催する「安渡(あんど)地域アーカイブ展」が開催された（コーディネーター：本研究部門研究員・野坂真）。

前年 12 月より安渡町内会会員の有志 8 名で構成される安渡地域アーカイブ実行委員会と企画を練り、「復興」を展示のテーマに、大槌町中央公民館安渡分館のギャラリーにおいて、合計で映像資料 2 点、図表資料 3 点、写真資料 120 点が展示された。開催当日は、地域住民を中心に約 80 名が観覧した。主な展示内容は以下の通りである。

<映像資料>

No.	内容	上映時間
1	2018 年訓練反省会のビデオ上映	1 5 分
2	ドローンによる 2019 年現在の安渡の復興状況の空撮映像の上映	8 分

<写真資料>

No.	内容	枚数
1	震災直後から現在までの地域の定点観測（5 か所）	40 枚
2	地域が復興してきている様子が分かる写真（地域行事復活の様子など）	70 枚
3	震災前および震災後の空中写真	10 枚

<図表資料>

No.	内容	枚数
1	安渡地区内に伝わる方言の一覧	1 枚
2	震災前の安渡の地図と屋号の一覧	1 枚
3	地域に伝わる民謡の歌詞を書き起こした大判紙	1 枚



会場で写真を観覧する人々
(2019 年 3 月 10 日)



会場で映像を観覧する人々
(2019 年 3 月 10 日)

観覧者からは、「今（安渡は）こうなってんのか」「ここにうちがあった」「もう一度これ（震災前まで行ってきた地域行事）やりてえな」といった声が聞かれ、地域の現状やこれまでの復興の歩みを再認識する場になったようであった。また、観覧者同士で写真や映像を介した会話も起こり、「（ここに住んでいた）〇〇さんはどこさ行っだ？」「釜石の〇〇だ」「こないだ〇〇で見だった」など、展示が、震災前の地域の様子を思い起こしたり、震災で散り散りになった友人・知人の現況を知るきっかけとなる媒介にもなっているようであった。

震災から 8 年を契機に、震災前の地域の様子と、震災後地域社会がいかに歩んできたかを住民同士が話し合いながら、再認識する場となったと言える。本展示企画を通じ、震災により何が変わってしまったのか、その後、これまでの復興に向けた歩みの中で自分たちが何を検討してきたのかをもう一度思い起こし、これから何をどのように取り戻していくかを考えることを促す場になったのではないかと推察している。

（報告：野坂 真）